

令和7年度 助産師・保健師職能合同研修会

令和7年7月5日（土）山口県看護研修会館において、令和7年度保健師職能集会被開催されました。併せて、助産師職能と合同で研修会被開催され、保健師26人、助産師17人、看護師2人の参加がありました。

虐待予防の観点から、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行えるよう、保健師・助産師・看護師の連携を深めることを目指して、山口大学大学院医学系研究科精神科神経科助教野田稔子先生に、『母親側の視点から虐待について考える～ハイリスク妊産婦ケアを通して～』と題してご講演をいただきました。

その後、『気になる妊産婦さんへの支援～切れ目のない支援を図るための連携について考えよう』というテーマでグループワークを実施しました。

◆ 講演：母親側の視点から虐待について考える～ハイリスク妊産婦ケアを通して～ 講師 野田稔子氏（山口大学大学院 医学系研究科精神科神経科助教）

虐待の背景にある母親の精神状態や周産期の精神状態についての説明と、精神的不調に早く気づきサポートすることの大切さや支援する上で大事なことについてお話いただきました。妊産婦のメンタルヘルスの理解を深め、必要な支援を改めて考えることができました。



<講演に対する参加者の感想・印象に残ったこと等>

- ・周産期うつには段階があり、症状が重くなるとより視野狭窄し孤立化しやすくなることや急速に増悪することがあると知った。涙が出る等の「小さな違和感」を感じる早い段階で妊産婦の小さな変化をキャッチし、サポートにつなげられるようにしていきたい。
- ・メンタルヘルスの状態をアセスメントし、拾い上げ、支援する。それを産婦人科・小児科・地域保健…とリレーのようにバトンタッチし共有しながら支援をつなげていくことが重要とのメッセージが心に残った。リレー方式で支援をつないでいきたい。

グループワーク：『気になる妊産婦さんへの支援～切れ目のない支援を図るための連携について考えよう』

導入として、保健師職能委員の防府市こども家庭センター藤原聖子さんより、「気になる妊産婦さんへの支援～切れ目のない支援を図るための連携について考えよう～」というタイトルで、こども家庭センターの役割・業務や市町での産後の支援等について活動報告を行いました。



<感想>

- ・市町での支援の動きや働きかけがよく分かった。
- ・気になる妊産婦に対し、保健師が訪問したり、偶然を装って接触したりしていると聞いて、すごいと思った。

その後、概ね圏域ごとに分かれてグループワークを行いました。

母子保健に携わる保健師と助産師、看護師とが、それぞれの立場で情報交換を行い、今後の連携につながる「顔の見える関係」を築くことができました。

今日のつながりを今後に生かしていきたいと思います。



<グループワークの感想等>

- ・気になる妊産婦は増えている印象。精神科との連携がやはり課題と感じている。
- ・医療機関と行政との連携は以前と比べると良くなっている。
- ・入退院時期などポイントとなる時機を押さえて情報共有や連携をしていきたい。
- ・タイムリーできめ細やかな連携のため、母子連絡票だけでなく、直接電話連絡して気になる部分の情報共有もしている。
- ・切れ目のない支援のため、それぞれの支援をバトンで渡せるようにしていきたい。
- ・今後も、こういった話し合いの場を地域で設けられると良い。



合同集会の前に、保健師職能集会が行われ、安池職能委員長より、令和6年度の事業報告、令和7年度の事業計画、令和7年度の日本看護協会通常総会報告が行われました。

皆様のスキルアップや、保健師同士のつながりを強固にするお手伝いができるよう、今後も研修を企画していきますので、皆様の参加をお待ちしています。

山口県看護協会保健師職能委員

